



パワー浜松ロータリークラブ週報 2015年2月24日号 本年度テーマ: Rotary Mind、Rotary Way を確認しよう～ 心で感じて・考えて・活動しよう～

パワー浜松ロータリークラブ (2014-15 年度会長: 小林昭次)
〒430-7733 浜松市中区板屋町 111-2 オークラアクトシティホテル浜松 4307 号室
Tel: 053-452-0800 Email: info@power-hamamatsurc.jp
http://www.power-hamamatsurc.jp

創立: 2002年10月22日 認証伝達式: 2003年4月29日 スポンサークラブ: 浜松中RC



第570回例会 2月24日 PM18:00～19:00

グランドホテル浜松2F

●点鐘 松田宏一 ガバナー補佐 ●開会の言葉 安達禎男 IM 実行委員長

●歓迎の挨拶 伊藤哲夫 浜松 RC 会長

●議事 静岡第7分区 インターシティミーティング

<出席報告> 本日出席率64名 71, 25% 前々回出席率80, 00%

■講演会 「ポリオ撲滅は可能か？」

講師 浜松医療センター副院長 矢野邦夫 様



「ポリオを撲滅することは可能か？」と質問されれば、「可能である！」と答えざるを得ない。病原体には撲滅が可能なもの、可能でないものがある。既に撲滅された天然痘に加えて、ポリオ、水痘、麻疹などは撲滅可能である。一方、エボラウイルス病、インフルエンザ、マラリアは撲滅できない。どうして、撲滅できるか否かが推定できるのだろうか？ それは、病原体が人間界だけで伝播しているのか、それとも動物界から人間界に入り込んでくるのかによる。天然痘は人間界のみで伝播している病原体である。そのため、強力なワクチンを開発し、人間から人間に伝播しないようにしてしまえば、流行ができなくなり、撲滅することができる。ポリオも同様であり、人間界のみで循環しているので、ワクチンによって撲滅できる。一方、エボラウイルスやインフルエンザウイルスは動物界で循環している病原体である。エボラウイルスはコウモリやサルなどが感染していて、それに人間が接触することによって、人間界に訪れる。インフルエンザウイルスも野鳥やその他の動物でも流行しており、ブタの気道などで人間界のウイルスと動物界のウイルスが混じることによって、新型インフルエンザウイルスが発生する。このような動物界から人間界に侵入してくる病原体は撲滅できない。すべての野鳥や動物にワクチンを打ち込むことができないからである。ポリオウイルスには3つのタイプがあり、タイプ2と3は既に撲滅された。現在問題となっているのはタイプ1

のみである。パキスタン、アフガニスタン、ナイジェリアでは駆逐されずに残存している。このような地域にはワクチンが十分に供給できておらず、多くの人々がポリオウイルスに感染してしまう。感染症の専門用語に「基礎再生産率」というのがある、これは「1人の感染者が、誰も免疫を持たない集団に加わったとき、平均して何人に直接感染させるかという人数」のことである。多くの人々が毎年冬になるとインフルエンザウイルスに感染しているが、このウイルスは強力な感染力を持った病原体であることは誰でも知っている。このインフルエンザウイルスの基礎再生産率は1～2である。それでは、ポリオウイルスはどうであろうか？実は、ポリオの基礎再生産率は5～6である。すなわち、免疫を持っていない人々の集団に病原体が入り込んだ場合、ポリオウイルスはインフルエンザウイルスをはるかに上回る感染力を持って流行できるのである。ポリオウイルスは経口感染であり、口・鼻・咽喉の細胞に感染する。ウイルスは最初の1週間は咽喉、そして糞便から数週間検出される。環境表面に付着した場合には2ヵ月間も生きている。このウイルスは患者の糞便に汚染した手指によって伝播してゆくが、環境表面に付着しているウイルスが手指に付着しても、伝播してゆく。そのため、手洗いが大変重要である。しかし、流行地域では水道システムが発達していないため、手指を介した伝播を防ぐことができない。ワクチンを多数の人々に接種できれば、感染者が発生したとしても、その周囲にはワクチン接種済の人々しかいない状態にできる。そうすれば、ポリオウイルスはその接種者集団を越えて、他に伝播することはできない。ワクチンが大変有効であることがわかっているのに、それを投与できないのはどうしてであろうか？それは、地域紛争などによって、人間がワクチンの投与を阻んでいるからである。すなわち、ポリオの撲滅はウイルスとの戦いではなく、人間との戦いとなっている。ワクチンが徹底的に接種され、手洗い設備がととのったとき、ポリオウイルスは必ず撲滅される。問題はそれが「いつであろうか？」ということである。

